

中濃地区

81 岐阜県博物館

(関市小屋名1989、TEL 0575-28-3111)

関市小屋名の岐阜県百年公園内にある県営の総合博物館である。昭和46(1971)年、岐阜県置県100周年の記念事業として計画され、昭和51年に開館した。本館には、自然展示室、人文展示室、特別展示室、企画展示室、みんなの部屋、図書資料室などがあり、マイ・ミュージアム棟には、マイミュージアムギャラリー、けんぱくホールがある。岐阜県の自然・考古・歴史・民俗・美術工芸などを紹介している。

入館料：大人340円、大学生110円、高校生以下無料
※特別展開催期間は別料金

休館日：月曜日(祝日の場合はその翌平日)、年末年始



82 関鍛冶伝承館

(関市南春日町9-1、TEL 0575-23-3825)

700年に及ぶ関鍛冶の技を今に伝える施設で、日本刀ができるまでの資料を展示している。1階には関を代表する兼元・兼定をはじめとする日本刀や、その製造工程・歴史に関する様々な資料を、2階にはカスタムナイフ作家のコレクションや関市の刃物文化が生んだ近現代の刃物製品が展示されている。日本刀鍛錬場や技能師実演場を併設し、刃物まつりや毎月一回の一般公開日には、日本刀鍛錬や技能師の実演が行われている。

入館料：大人 300 円、高校生 200 円、小中学生 100 円
休館日：火曜日・祝日の翌日(いずれも休日を除く)



83 関市円空館

(関市池尻185、TEL 0575-24-2255)

円空は最晩年、関市池尻弥勒寺に自坊をかまえ、最後は長良川河畔で入定し(1695年)その64年の生涯を終えた。関市では円空ゆかりの地に「関市円空館」を建て、円空を広く紹介している。市内各所に残る円空仏の中から30点ほどを選び展示している。周辺には円空入定塚や円空の墓もある。また、この地は円空の時代より1000年ほど前、武儀郡の中心地として栄えた地域で、弥勒寺跡・弥勒寺東遺跡・弥勒寺西遺跡などからなる武儀郡の郡衙(郡役所)があったところでもあり、これらも紹介している。

入館料：大人250円 高校生以下無料
休館日：月曜日(祝日を除く)・祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始



84 関市塚原遺跡公園展示館

(関市千疋1777-1、TEL 0575-28-5955)

縄文・古墳時代の竪穴住居や古墳などを復元した遺跡公園。展示館にはこの遺跡から出土した土器や石器などが展示されている。

入館料：無料
休館日：月曜日、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始



85 カミソリ文化伝承館・フェザーミュージアム

(フェザー安全剃刀株式会社)

(関市日の出町1-17、TEL 0575-22-1923)

「フェザーミュージアム」は、刃物の町関市にある世界で初めての刃物の総合博物館である。「切る」とひと言でいっても、押して切る、はさんで切る、けずって切るなど、いろいろな「切る」がある。その「切る」をテーマに掲げ、石器時代から現代までの様々な刃物を展示し、楽しみながら学べる体験型ミュージアムとなっている。

入館料：無料

休館日：火曜日、盆時期休、年末年始休、臨時休あり



86 ナイフ博物館 (ガーバー・サカイ(株))

(関市平賀町7-3、TEL 0575-24-2132)

カナダ風ログハウスの建物内に、世界数十カ国から集められた約1,500点のナイフが展示される、ナイフ専門の博物館である。博物館の横には、全長5.1m、総重量600kgの世界最大の「ガリバーナイフ」と名付けられたロックナイフが展示されている。

入館料：無料

休館日：土曜日・日曜日・祝日



87 世界のナイフ資料館 (SETOカトラリー)

(関市稲口674、TEL 0575-22-8892)

関の刃物メーカー「SETOカトラリー」が30年以上かけて収集したナイフコレクションを一般公開している。館内にはヨーロッパの騎士、イングランドの紳士、アメリカ西部のガンマンのロマンを乗せたナイフなど、世界各地から多彩なナイフが集められている。

入館料：無料

休館日：第2・第4土曜日、日曜日、祝日、盆時期、年末年始、



88 岐阜現代美術館 (関市桃紅大地1、

鍋屋バイテック会社関工園内、TEL 0575-23-1210)

鍋屋バイテック会社関工園内に、平成18(2006)年に開館した。主に岐阜県ゆかりの作家である篠田桃紅作品を収集し、テーマを決めて展示している。また、現代作家の展覧会も企画するほか、音楽コンサートなども行っている。

入館料：無料

休館日：第2・第4土曜日、日曜日、祝日、盆時期、年末年始、臨時休館あり



89 関市洞戸円空記念館・高賀神社宝物殿

(関市洞戸高賀1212、TEL 0581-58-2814)

修験者円空が修行した高賀神社の境内にある円空の記念館。円空晩年の最高傑作を含む約30体の円空仏や愛用の硯、錫杖、和歌などが展示されている。

高賀神社右手にある「宝物殿」には、平安から室町時代にかけての32体の仏像や神像、神輿等が展示されている。

入館料：大人250円、小中高生無料

休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始

(宝物殿は入場無料、電話予約が必要)

(高賀神社社務所0581-58-2295)



90 関市武芸川ふるさと館

(関市武芸川町八幡1566、TEL 0575-45-3010)

武芸川町ゆかりの、仙厓(禅僧)、早川国彦(水彩画家)、山田三秋(俳人、歌人)、森有一(俳人、画家)、田中金峰(書家)、相宮青雲(水墨画家)、尾川兼圀(刀匠)などの作品を展示している。

入館料：無料

休館日：木曜日(祝日の場合翌日)

祝日・休日の翌日、年末年始



91 旧今井家住宅・美濃史料館

(美濃市泉町1883、TEL 0575-33-0021)

住宅は、江戸時代中期(18世紀末)に建てられた市内最大規模の商家で、間口12間(約22m)、奥行8間(約14.5m)、建坪96坪(316.8㎡)で、中2階の構え。中庭には日本の音風景100選に認定された「水琴窟」があり、奏でる琴の音に心癒やされる。奥の蔵には、漢学者の村瀬藤城、秋水、雪峽の掛け軸や屏風の他、坂本龍馬・勝海舟・西郷隆盛などの幕末の志士たちが師と仰ぐ、昌平坂学問所総長「佐藤一斎」の直筆の手紙を表装した「麓西館書簡」が展示されている。

入館料：大人(高校生以上)300円

休館日：12月～2月の火曜日、祝日の翌日、

年末年始



92 美濃和紙あかりアート館

(美濃市本住町1901-3、TEL 0575-33-3772)

「美濃和紙」と「あかり」をテーマにしたミュージアムで、うだつの上がる町並みで毎年開催される「美濃和紙あかりアート展」を館内2階に再現している。建物は昭和16(1941)年頃に美濃町産業会館として建築されたもので、平成17(2005)年に国登録有形文化財となっている。

入館料：大人(高校生以上)200円

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、

年末年始



93 美濃和紙の里会館

(美濃市蕨生1851-3、TEL 0575-34-8111)

「美濃和紙」をテーマにした博物館である。美濃和紙の歴史や技術、現代における和紙の展開と未来の可能性を紹介する常設展示室のほか、紙をテーマとしたユニークな企画展を開催している。また、紙すきの実演見学や体験などが出来る参加体験型の施設でもある。

入館料：大人500円 子供250円

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、祝日の翌日



94 美濃和紙用具ミュージアムふくべ

(美濃市片知813、TEL 0575-36-4914)

ユネスコ無形文化遺産「和紙 日本の手漉和紙技術」の用具類を中心に、この地方の歴史や文化に関する資料を展示する施設として、旧片知小学校を利用して平成30(2018)年に開館した。また、民具を使った体験のほか、エントランスにはボルダリングウォールを設置するなど体験もできる施設である。

入館料：大人(高校生以上)200円

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌日）、年末年始



95 旧名鉄美濃駅

(美濃市広岡町、TEL 0575-33-1122)

この駅は、大正12(1923)年に開設されたが、平成11(1999)年に名鉄美濃町線の新関～美濃間が廃止されるとともに廃駅となった。当時の駅舎・プラットホーム・線路はそのまま保存され、旧越美南線(現長良川鉄道)美濃市駅とともに大正期の貴重な近代遺産として、国登録有形文化財となっている。

入館料：無料

休館日：火曜日、年末年始



96 郡上市歴史資料館

(郡上市八幡町中坪226-1、TEL 0575-65-3711)

近年、地域の有形無形の歴史文化資料は、世代交代や社会生活の変化などにより、消失の危機に瀕している。郡上に関わる様々な資料(文書・画像・音声・美術工芸品等)を、適切な環境で保管し、整理し、調査研究することで、閲覧できる拠点施設として、平成30(2018)年に設置された。

入館料：無料

休館日：月曜日（祝祭日の場合は翌日）、年末年始



97 郡上八幡博覧館

(郡上市八幡町殿町50、TEL 0575-65-3215)

大正時代の建物をそのまま利用し、「水」「歴史」「技」「踊り」のコーナーに分けて、郡上八幡の魅力を、楽しく、わかりやすく展示している。郡上おどりの実演も行われている。

入館料：大人540円、小中学生320円

休館日：年末年始



98 齋藤美術館

(郡上市八幡町新町927、TEL 0575-65-3539)

郡上藩主とも交流があった齋藤家の歴代当主は茶人として活躍し、その時々を集めた書画や茶道具を展示する美術館として昭和62(1987)年に開館した。

入館料：大人300円、小中学生200円

休館日：木曜日、1～2月



99 安養寺宝物殿

(郡上市八幡町柳町217、TEL 0857-65-2726)

安養寺は佐々木高重が近江国で建立したのを始まりとして、その後何度も場所を移しているが、明治14(1881)年に現在の八幡城三の丸に移転してきた。宝物殿には古文書や仏画など寺宝を展示してある。

入館料：大人300円、小人150円

休館日：木曜日、1～2月



100 ひるがの湿原植物園

(郡上市高鷲町ひるがの、TEL 0575-73-2241)

ひるがの湿原植物園は、郡上市の最北部、長良川の源流部、高鷲町の「ひるがの高原」にあり、かつてのひるがの高原の面影を残す貴重な場所となっている。園内には、50種類以上の湿原植物と水生植物が生育し、モリアオガエルやイトトンボなどの動物たちも生息している。

入園料：無料（入口に湿原保護協力金(任意)の募金箱あり)

休園日：冬季休園（10月中旬～4月中旬）



101 たかす開拓記念館

(郡上市高鷲町大鷲1244-8、TEL 0575-72-6321)

高鷲の開拓は、明治時代に北海道上名寄地区への開拓移住を始まりとして、アジア太平洋戦争前には満州琿春地域へ開拓団を派遣した。高鷲地区では、昭和15(1940)年に「ひるがの」で開拓が始まり、戦後、兵役や満州開拓から引き揚げてきた人々によって「乳と蜜の流るゝ郷」を目指して本格的な開拓が進められた。平成28(2016)年に、高鷲の開拓をはじめ、明治から昭和にかけての開拓の歴史資料を展示した「たかす開拓記念館」が、たかす町民センター内に整備された。

入館料：無料

休館日：月曜日



102 山川弘至記念館

(郡上市高鷲町切立明谷、
連絡先 山川清至、TEL 0575-72-5188)

郡上郡高鷲村出身の山川弘至は、大正15(1926)年生まれで、國學院大學国文科を卒業後、在学中から民俗学者折口信夫に師事し、田中京子と結婚。その5日後に召集され、終戦直前に台湾で爆撃にあい28歳で死去した。遺族が弘至の遺徳をしのいで交流のあった金田一京助・棟方志功・司馬遼太郎らとの書簡や版画を國學院大學から寄贈を受け展示している。

入場料：無料

休館日：見学には事前に電話予約が必要



103 白山文化博物館

(郡上市白鳥町長滝402-11、TEL 0575-85-2663)

白山をイメージした外観を持つ白山信仰の歴史と文化を紹介する施設である。白山登拝の魅力を紹介する大型映像や、周辺の白山信仰に関する史跡等の紹介をはじめ、長滝白山神社や長瀧寺、阿名院が所蔵する文化財の数々を展示している。その他、白山麓の山里の暮らしを伝える「ふるさと生活展示室」や江戸時代の郡上一揆に関する資料を保管展示する「歴史民俗展示室」などもある。近隣の長滝白山神社にある「白山瀧宝殿」は白山文化博物館の別館として、長滝白山神社、長瀧寺、阿名院の神像・仏像を展示している。(瀧宝殿は11月下旬から4月下旬まで冬季休館)

入館料：大人320円 小中学生110円(瀧宝殿との共通券は大人540円、小中学生180円)

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始



104 若宮修古館

(郡上市白鳥町長滝138、TEL 090-4866-8940)

長滝白山神社の神主家である若宮家の住宅は天明5(1785)年建築の歴史ある建物で、白山文化・郡上の歴史を伝える美術工芸資料、民俗資料が展示されている。若宮家住宅は昭和38年に県指定文化財に指定され、同年増改築を行ない、主に増改築部を展示施設として、昭和42(1967)年から一般公開を始めた。また、谷崎潤一郎の「細雪」の舞台となった爛柯亭(らんかてい)も移築されている。

入館料：大人400円 小人200円

休館日：冬季休館(11/20~3/20)



105 石徹白ふるさと館

(郡上市白鳥町石徹白、TEL 0575-86-3700)

石徹白(いとしろ)は霊峰白山の南麓にある小さな集落で、白山信仰の美濃側の入口として栄えた。「石徹白ふるさと館」では、石徹白の自然・文化・歴史を詳しく紹介している。

入館料：大人150円、小学生以下無料

休館日：見学には事前予約が必要



106 石徹白大師堂

(郡上市白鳥町石徹白、

問合せ先 講元 上村修一宅 (TEL 0575-86-3143))

石徹白の人々は明治の神仏分離令のとき、大事な仏様を棄却するわけにはいかないと、大師講をつくり中に在所に大師堂を建て仏事を勤めてきた。大師堂とは白山開祖泰澄大師にちなんだものである。仏像群の中の「銅造虚空蔵菩薩像」は平安時代に奥州藤原秀衡が寄進したとされる仏像で、国指定重要文化財である。

入館料：志納

休館日：見学には事前予約が必要



107 石徹白御師の家 (清住家)

(郡上市白鳥町石徹白4-42、

問合せ先 (有)石徹白土建 TEL 0575-86-3020、
社長石徹白秀也氏 090-4791-8510)

石徹白の御師は、夏は白山への道案内や宿の世話、冬は各地の旦那場を巡り白山信仰の布教に大きな役割を果たした。御師の活動は江戸中期から盛んとなり、明治の神仏分離令で衰退するが、第2次大戦後まで細々と続いていた。御師の家の一つ清住家には、御師の活動のための施設や資料が残されている。

入館料：無料

休館日：見学には事前予約が必要



108 日本土鈴館

(郡上市白鳥町大島1554-6、TEL 0575-82-5090)

全国各地の郷土玩具、土人形、土鈴、昭和の玩具、東南アジアの民芸品を4つの建物に分類して展示する博物館である。とくに土鈴は16,000以上に及び、その内3,000点は昭和初期の貴重な物である。ギネスブックにも認証されている

入館料：無料

休館日：年中無休 (天候その他で休館があるので電話予約が必要)



109 古今伝授の里フィールドミュージアム

(郡上市大和町牧912-1、TEL 0575-88-3244)

中世に郡上を治めた東氏の9代常縁(つねより)が、連歌師宗祇に古今伝授を行い、「古今伝授の祖」と呼ばれたことから、和歌をテーマとした博物館施設(東氏記念館・和歌文学館・大和文化財収蔵展示館)を中心に、国名勝東氏館跡庭園や県史跡篠脇城等を含んだ野外博物館として平成5(1993)年に開館した。

入館料：大人320円、小中学生110円

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始



110 円空研究センター

(郡上市美並町白山430-4 TEL 0575-79-3700)

日本まん真ん中センター内にある「円空研究センター」は、円空に関する情報を全国に発信する施設である。円空が歩いた足跡をたどる展示や、代表的な円空仏のパネル展示など、全国の円空関係の情報を提供している。

入館料：大人100円

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始



111 美並ふるさと館

(郡上市美並町高砂1252-2、TEL 0575-79-3440)

円空ゆかりの地とされる美並町粥川地区にある「美並ふるさと館」は、「円空ふるさと館」と「美並生活資料館」からなっており、「円空ふるさと館」には初期から晩年にかけての円空仏約90体が展示されている。「美並生活資料館」には美並(特に粥川地区)の昔の暮らしぶりについてジオラマを使用してわかりやすく展示している。

入館料：大人220円 小人110円

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始



112 明宝歴史民俗資料館

(郡上市明宝気良154、TEL 0575-87-2119)

閉校した校舎を利用して、民俗資料博物館として昭和52(1977)年に開館した。民具、古文書、おもちゃ、人形等約47,000点あまりが収蔵されている。その中から3,500点ほどが、「明方の山村生産用具」「奥美濃の人生儀礼用具」として国重要有形民俗文化財に指定されている。炭焼きや養蚕、雪対策や水事情、食事や着物などについて、古老たちが独自の語り口で説明している。

入館料：大人220円 小人110円

休館日：月曜日(祝祭日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始、冬季(12月～3月)の平日



113 和良歴史資料館

(郡上市和良町宮地1121-1、TEL 0575-77-4011)

和良町の原始時代遺跡より出土した遺物や戸隠神社、宮代白山神社の宝物などの文化財を展示している。民俗資料展示室では、和良町で古くから使われた農機具、生活用具等展示している。そのほか、国の天然記念物に指定されているオオサンショウウオが飼育されている。

入場料：大人220円、小人110円

休館日：火・木曜日（祝日の時はその翌日）



114 美濃加茂市民ミュージアム

(美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1、TEL 0574-28-1110)

「みのかも文化の森」の中心施設で、美術館・博物館という枠にとらわれない市民文化の拠点を目指して、平成12(2000)年に開館した。博物館としては、美濃加茂市の自然、文化、歴史に関する展示がなされ、同市ゆかりの坪内逍遙、津田左右吉に関する展示がある。文化の森の敷地内には「民具展示館」と「生活体験館」があり、民具などが展示されている。美術館としては、同市ゆかりの作家の作品を展示する展示室があり、彫刻の森には彫刻が野外展示されている。

入館料：無料

休館日：月曜日（祝日の場合開館し、直後の平日休館）
年未年始



115 太田宿中山道会館

(美濃加茂市太田本町3-3-31、TEL 0574-23-2200)

国重文の旧太田宿脇本陣林家の西隣にあり、平成18(2006)年開館した。会館内には、江戸時代の中山道、宿場町の様子、太田の渡し、太田宿に宿泊した皇女和宮等の資料が展示してある。敷地内には、美濃加茂市に2年ほど住み、文芸・芸術活動を展開した岡本一平の居宅を再現した「糸遊庵」もあり、美濃加茂市にゆかりの坪内逍遙など著名人を紹介している。

入館料：無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）



116 ヤマザキマザック工作機械博物館

(美濃加茂市前平町3-1-2、TEL 0574-28-2727)

ヤマザキマザックが同社創業100周年を記念し、地下工場を改修して令和元(2019)年に開館した工作機械の博物館である。18世紀から現代までの工作機械が展示されており、ほぼ全ての機械が動態展示となっている。また実際に工作機械の部品を生産している最新の工場「スマートファクトリ」を見学できる。さらにキサゲ作業などを体験できるワークショップも開催されている。

入館料：大人500円、高・大学生300円、小・中学生200円、学校行事は無料、障がい者割引あり

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年未年始



117 可児郷土歴史館

(可児市久々利1644-1、TEL 0574-64-0211)

可児市の自然・歴史・民俗分野などの資料を収蔵した総合博物館。「可児の地質時代から現代まで」をテーマとして「化石」「考古」「古陶器」「宗教美術」の幅広い内容を展示している。戦国時代の山城(久々利城)跡に近接し、慶長年間から明治までおよそ260年間この地にあった千村氏(木曾氏庶流)の陣屋跡地に建設されており、当時の土塁や石垣跡が残っている。

入館料：大人210円 高校生以下、障がい者(手帳提示)の方と付添いの方(1名) 無料

休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始



118 八十一隣春秋園・木曾古文書館

(可児市久々利1644-1、TEL 0574-64-3311)

可児市久々利にある「八十一隣春秋園」は、木曾義仲の子孫・千村良重が関ヶ原合戦の功績により与えられた下屋敷の跡地である。園内には、「木曾古文書館」があり、江戸幕府の旗本であると同時に尾張徳川家の重臣という立場であった千村家に伝わる「書状」「絵図」などが展示されている。

入館料：大人300円、予約が必要

休館日：火曜日、年末年始



119 荒川豊蔵資料館

(可児市久々利柿下入会352、TEL 0574-64-1461)

荒川豊蔵資料館は、陶芸家であり志野・瀬戸黒の重要無形文化財保持者(人間国宝)である荒川豊蔵が創設した。昭和5(1930)年に、豊蔵が志野陶片を発見した可児市久々利大萱にあり、敷地内には県史跡の牟田洞古窯跡がある。館内では豊蔵の収集品と作品を展示、旧荒川豊蔵邸の敷地内では居宅や陶房を公開している。

入館料：大人210円、高校生以下、障がい者(手帳提示)の方と付き添いの方(1名) 無料

休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始



120 戦国山城ミュージアム(旧兼山歴史民俗資料館)

(可児市兼山675-1、TEL 0574-50-8443)

可児市戦国山城ミュージアムは、金山城とその城下町巡りの拠点施設となっている。明治18(1885)年に建てられた、懸け造りの三階建てという珍しい形態の旧兼山小学校の校舎を平成6(1994)年に解体改修し、「兼山歴史民俗資料館」として開館した。南面からは二階造り、北面からは総三階という学校建築は極めて珍しく、建物そのものが貴重である。平成30年からは「戦国山城ミュージアム」として、兼山地区に残る国史跡美濃金山城跡と城主森氏をはじめ、市内各地の山城を紹介している。

入館料：大人210円、高校生以下、障がい者(手帳提示)の方と付き添いの方(1名) 無料

休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始



121 川合考古資料館

(可児市川合北2-14、TEL 0574-63-4339)

可児市川合地区には、1辺30m、高さ7mの方墳で、外面をびっしりと河原石で覆われた、ピラミッドを思わせる県下最大級の方墳「川合次郎兵衛塚1号墳」があり、平成7(1995)年には県史跡に指定された。古墳に隣接して川合公民館があり、その中にある「川合考古資料館」では、次郎兵衛塚1号墳をはじめ、川合地区で発掘された縄文時代から古墳時代の資料が展示されている。

入館料：無料

休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始



122 犬山焼徳利盃館

(可児市塩河3431、TEL 0574-65-6416)

可児市に平成6(1994)年開館した個人所有の博物館で、2500点にも及ぶ犬山焼の徳利と盃を中心とした収集品の展示を行っている。

入館料：無料

休館日：無休(事前予約が望ましい)



123 兼松製瓦資料館 (株)兼松製瓦工業

(加茂郡坂祝町黒岩1387-9、TEL 0574-26-7605)

明治16(1883)年より美濃耐寒いぶし瓦を製造する(株)兼松製瓦工業の事務所内に、一般住宅や神社仏閣のかわらや鬼瓦を展示している。

入館料：無料

休館日：見学には電話予約が必要



124 富加町郷土資料館

(加茂郡富加町夕田212、TEL 0574-54-1443)

奈良正倉院に残る日本最古の戸籍一つ『御野國加毛郡半布里戸籍』のレプリカを見ることができる。半布里戸籍の解説や当時の里の様子を模型や影像で紹介するコーナーを中心に、戦国時代の加治田城跡・堂洞城跡の城主・合戦・城下町、岐阜県最古の前方後円墳である夕田茶臼山古墳など、富加町に関する歴史や文化を紹介している。

入館料：無料

休館日：月曜日、祝日の翌日



125 松井屋酒造資料館

(加茂郡富加町加治田688-2、TEL 0574-54-3111)

「松井屋」は「松井屋酒造場」として、江戸時代から続く酒蔵を利用して酒造りを営んでおり、酒蔵を資料館として開放し、酒造用具と生活用具の約7,000点余りを展示している。江戸時代の酒造りに関するほぼすべての道具と、酒造りを行う酒蔵が一体となって残り、なおかつそこで今も酒造りが行われている。このような例は数少なく、松井屋酒造場は、酒造場3棟、酒造用具3,143点及び酒造文書459点が「民俗資料」として、平成7(1995)年に県重要有形民俗文化財に指定されている。

入館料：大人300円 小人150円

休館日：月曜日、酒造時期（12月上旬～1月末頃まで）



126 珪化木の不思議館

(加茂郡川辺町中川辺1119-1、柳川桂一090-9222-7263)

珪化木は土砂等に埋もれた樹木が長い年月をかけて、二酸化ケイ素（シリカ）に変化することで、樹木の原形を残したまま化石化したものである。美濃加茂市から川辺町にかけて広がる蜂屋累層から多く見つかった。珪化木の中には、「土岐石」と呼ばれる、赤、黄、緑その他、色彩豊かで、さらに濃淡・混ざりが加わった不思議な美しさを持つ石もある。『不思議館』では、珪化木をはじめ水晶、蛍石、梅花石、壺石、フズリナ化石なども展示している。

入館料：無料

休館日：見学には電話予約が必要



127 日本最古の石博物館

(加茂郡七宗町中麻生1160、TEL 0574-48-2600)

昭和45（1970）年に飛騨川河床の上麻生礫岩より、20億年前の片麻岩が発見され、このことにちなみ、平成8（1996）年に開館した。日本最古の石の他、地球最古の石など、地球の誕生から現在に至るまでの46億年の歴史がわかる展示がされている。平成31年3月に島根県津和野町にて25億年前の岩石が発見されたが、令和2(2020)年のリニューアルにあたり、津和野町よりその岩石の寄贈を受けて、展示を開始した。また、体験展示が新設された。

入館料：大人300円 子供100円

休館日：月曜日（祝祭日の場合は翌日）

祝日の場合は翌日、年末年始



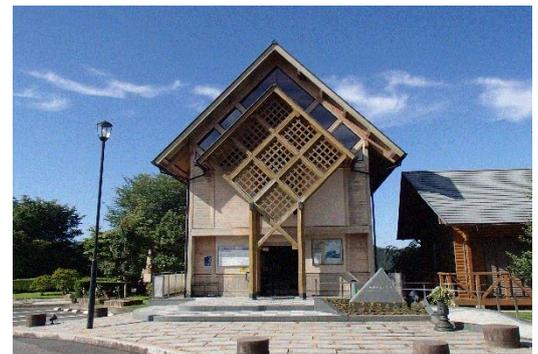
128 杉原千畝記念館

(加茂郡八百津町八百津1071、TEL 0574-43-2460)

第二次世界大戦中、リトアニアの領事館に外交官として勤務していた杉原千畝は、ナチス・ドイツの迫害を逃れてきたユダヤ人たちに、人道上的立場から独断で日本を通過するためのビザを発給し、数千人の命を救ったといわれている。人として、人の道を選んだ杉原千畝の愛ある決断にふれ、考えることができる記念館である。

入館料：大人300円、中学生以下無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始



129 つちのこ館

(加茂郡東白川村神土426-1、TEL 0574-78-3192)

「つちのこ」は、伝承や目撃談はあるものの、いまだ捕獲に成功していない未確認動物のひとつである。その目撃情報が最も多い東白川村に、「つちのこ館」があり、「つちのこ」に関する文献等の資料と動く模型などが展示されている。

入館料：大人300円、小人100円

休館日：水曜日、年末年始



130 平和祈念館

(加茂郡東白川村こもれびの里慰霊塔敷地内、
問合せ先東白川村役場 TEL 0574-78-3111)

村内における、明治10(1877)年の「西南の役」から「第2次世界大戦」までの戦没者224名、満州開拓関係物故者92名、戦争体験者約800名の戦争記録を集めて展示している。建物は役場の敷地内にあった石倉を移築したものである。

入館料：無料

開館日：3月～11月の第1・第3日曜日(13:00～15:00)

(平日、10名以上の団体は役場へ予約が必要)



131 中山道みたけ館（御嵩郷土館）

(可見郡御嵩町御嵩1389-1、TEL 0574-67-7500)

中山道みたけ館は、江戸時代、中山道の宿場町として栄えた「御嶽宿」の一角にある。1階が図書館、2階が郷土館の複合施設で、御嵩町の情報文化の発信基地として平成8(1996)年に開館した。「郷土館」には中山道に関する資料や文献を中心に、中世の願興寺廃寺や東山道、近世の隠れキリシタン、近代から現代の亜炭坑などについて展示している。すぐ西側に願興寺、東側に御嶽宿本陣跡や商家竹屋などの施設がある。

入館料：無料

休館日：月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始、
毎月第3火曜日、毎月最終金曜日



132 願興寺霊宝殿

(可見郡御嵩町御嵩1377-1、TEL 0574-67-0386)

願興寺は可見大寺、蟹薬師として古来より民衆に親しまれてきた。その本堂西隣にある霊宝殿には、本尊の薬師如来坐像(秘仏)をはじめ、四天王像、十二神将など平安末から鎌倉時代にかけての仏像24体(国重文)が安置されている。本堂は平成29(2017)年から保存修理工事に入っており、2026年に完成予定である。

入館料：大人・小人 500円

休館日：霊宝殿は見学可能、見学には電話予約が必要

